解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（15・中）

―― 金慶海さんへのインタビュー記録 ――

藤永　壯／高　正子／伊地知紀子／鄭　雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本　拓／高　誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan from Jeju Island in the Immediate Postwar Period（15）― Part Ⅱ ―

― An Interview with Kim Kyonghe ―

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

東京での生活（続）

《将来の夢》

――その，高校まで行かれてから，そのまますぐに大学に？

金：いや，すぐに行ってない。2年間浪人したんや。始めは，日本のどの大学入ろうとしたんかな。どこかの大学ねらったんだけど，あまりにも中学，高校時代，勉強してなかったもんだから，入れなかったんよ（笑）。

――で，なんで日本の学校と思ったんですか？

金：いや，当時，朝鮮大学できたばっかりでさ。そんなん，もう。

平成27年3月13日　原稿受理
大阪産業大学　人間環境学部文化コミュニケーション学科教授

――できたてですかね？

金：うん。東京朝高の，僕ら３年の時っていうたら，朝高の校舎２階建てやのに，大学は１階建て。そんなん嫌や，そんなん，ぼろぼろの校舎や。あれは大学かなって見下げたもん。あら，あかんって言うて。それでどっか東京の，なんか大学ねらって，浪人して勉強したんだけど，やっぱりあかん。あまりにも勉強してなかったから。

――何しようと思わはったんです？

金：教員考えた。

――教員？　えっと，朝鮮学校のですか？

金：うん。教員なろうと思ったんだけどね。でもそんな，レベルがだめ。全然やっぱり勉強してなかったから，もうついていけん。試験落ちちゃって。

――その時って，朝鮮学校出て，大学，日本の大学って入れた？

金：もちろん，入れた。国立はほとんどだめだけどね。私立はほとんど入れた。

――東京の大きな大学は，まあたいてい……。

金：僕らの先輩でも入った人おったし。その後の，僕が高校１年の時に，２年先輩に許宗萬（ホ ジョンマン）*7がおったんや。サッカーの選手でね。奥さんも同じ３年におって。あの，許宗萬（ホ ジョンマン）らが，東京朝高のサッカー部におる時に全国試合に出て，４位になったんや。それでもう大センセーショナルなったわけ。朝鮮高校，東京朝鮮高校サッカー部！　全国に出たんや。

――日本の全国大会に？

金：そうそう。

――そのころは，日本の全国大会に出られたんだ。

金：出れたんや。というのは，都立学校だったから*8。東京都立の学校だったから。

――都立に移管されてた。

金：そうそう，最後のころだった。都立高校だから，全国大会，出れるわけ。

――そうすると，建前は校長は日本人で。
金：もちろん。

――朝鮮人の教員なんかがいて，授業はどうなんですか？
金：授業は，実質的には朝鮮教育やけどね。サッカー試合で勝ったあくる日は，もう日本の校長が喜んじゃってね。今までは朝礼台に立ったことないのにな。その日だけはもう喜んでね，お祝いしとったわ。安岡いう校長だったけれども。そういう記憶あるな。その全国大会で4位になった以後，在日朝鮮サッカー団ができるわけ。それが契機なの。

――蹴球団がね。へー。許宗萬（ホ ジョンマン）もそこにいたの？
金：うん。許宗萬（ホ ジョンマン）も入った。で，僕と同じ高校1年におった，金明植（キムミョンシク）*9という子がおったんだけどもね，後に在日朝鮮蹴球団の創設にかかわるんだけど，『蹴る群れ』（木村元彦著，講談社，2007年）という本が出たんだけども，この中の一人に，金明植（キムミョンシク）という同じ同級生がいた。……サッカー上手でね。枝川出身やね。今あの問題なってる，第二小学校*10か，［金明植］も，おったんよ。

――ほんで，高校で，そしたら文系とかあるんですか，理系とか？
金：うん，特別なし。

朝鮮大学校に学んで

《帰国運動》

――高校，大学の時は，あの，例えば大学の今度は，帰国運動⑤-*19）なんかのころですよね。なんか，組織活動の中では議論されたりした？
金：えっと，僕は大学入ったのは59年かな。あの時に，大学入ってすぐ，帰国運動って実現してるわね。12月に新潟から出てるけど。新潟に僕行ってるんやけどね。あの，大学入ってすぐ，ブラスバンドができるんよ。その時僕，トロンボーンやったの。

――えー，そうなんですか？　楽器を。
金：なんでやと思う？

――華やかやから？

金：いや，アメリカの有名なあの楽団があるやん。トロンボーン吹きながらね，楽団指揮する人。グレン・ミラー楽団っていうてね，第２次世界大戦の時に，慰問活動してた楽団があるのよ。その指揮者がトロンボーン吹いてた。これがものすごい上手だった。なんの歌だったかな，音楽は……。いやまあ，メロディーは。

――それは何で，映画かなにかで？

金：見たんや。それで惚れちゃってね。トロンボーンやったんや。で，できたばっかりだったから自由にみなやったから。

　で，すぐ，新潟から船が出ると。で，始めは上野駅でやったんだけど，おまえらそのまま新潟まで行けーってなったんよ。新潟には楽団がいないって言うてね。東京と新潟じゃあ，もう気候が違うやん。しゃあない，行ったよ，でも。さっむい，寒い。

――何月ですか？

金：12 月。あれ 14 日に出たんかな。それで帰ろうと思ったら，次の船まで居れって言われて〈一同：笑い〉。それで年末ずっと居った。さっむい，寒い。ぶるぶる震えながら，歓送の音楽してあげた。

――どんな音楽？

金：そりゃもう，김일성 장군의 노래［金日成将軍の歌］，愛国歌（エグッカ）とか，もう全部北系っていうの，ばっかりやったよ。

――北の愛国歌（エグッカ）というのは？

――아침은 빛나라 이 강산（アチムン ビンナラ イ カンサン）［朝は輝け，この山河］。

金：そうそう，それそれ，金日成将軍の歌（キムイルソンチャングネノレ）とかね，いくつか。あんまりレパートリーなかったんや。できたばっかりだから。

――繰り返しやったんや。時間かかるじゃないですか。

金：もう合宿よ。もう，知ってる人に編曲してもらってね，新しいレパートリー作らな，あかんやん。あんまり吹けなかったら，あれやし。ああ，もう往生したよ。音がちゃんと出えへんしな。

――指導の先生はどんな先生？

金：先生いなかった。よくできる人が編曲したんや。

――自分らでやった？

金：うん。当時の朝鮮大学生って，いろいろな人，おって面白かったんよ。もう理科やりながらでも音楽好きな人おるしね。編曲できる奴，おったんよ。面白い奴，おんねんで［いるんだよ］。これ，後で［共和国に］帰国してから行方不明なっちゃったけどね。そういう人らがもう戦争［に］なってから，もういろいろ苦労してから。後で崔東玉（チェドンオク）先生（ソンセンニム）*11 が来て，教えてくれたけどね。崔東玉（チェドンオク）とか，李哲（イチョル）。彼はアコーディオンが上手だった。

――文芸同（ムンエドン）［在日本朝鮮人文学芸術家同盟］*12 のですか？

金：うん。李哲（イチョル），いうてね。彼と洪峰子（ホンボンジャ）。李哲（イチョル）は相当下だけど。俺と同じくらいの歳だから，文芸同については，彼よう知ってるよ。芸術家同盟については。

――この人たちはどこで習った人たちなんですか？

金：李哲（イチョル）は日本学校（イルボンハッキョ）で習ったんよ。

《建青と総連》

――お兄さん二人はいつ［祖国へ］帰らはったんですか？

金：2 番目の兄貴が先に帰ったんよ。60 年か 61 年に帰っとんねん。

――大学生の時？

金：違う違う，俺，大学生の時。

――金慶海（キムキョンヘ）さんが大学にいる時。

金：ここで，ゴム工場やってたけどさ。機械一式，20 何台かな，靴作る機械。一式全部仕入れて持って帰ったんや。

――向こうで使いはりましたか？

金：うん。咸興（ハムフン）に行ったんだけど，そら，最新式機械持っていったら，待遇はどのくらい

よいか。着いたとたんに，副支配人になって，それで生活はもう安泰や。しかも自分の，なんやあの，弟の嫁さんがあの洪峰子（ホンポンジャ）だからさ。また箔が付いて，生活もう安泰や。当時，北朝鮮ではケミカルシューズは作れなかったんや。ケミカルシューズを作る機械一式持って行ったから，そらもう待遇はものすごいよ。

――長男さんはいつ行かれたんですか？
金：長男はいつ行ったかな。70年代に入ってから行ったと思う。

――なんで行ったんですか？　なんで北に帰ったんですか？　長男さんは。
金：あの，おふくろの家に帰ったんや。

――お母さんはなんで帰ったんや？
金：お母さんは……兄貴が先に帰った後で帰ったかな。どっちが先かな。とにかく僕が大学時代に親父が死んで，その遺骨を持っておふくろは帰ってるねん。……長男の後に帰ったかな。どっちが先かな……。なんで帰ったんかも，はっきり聞いてない。

――一番最初に帰ったのは2番目のお兄さんなんですね。
金：そうそう，それだけははっきりしてる。

――その後，お母さんとお兄さん，一番上の？
金：うん。

――みんな家族を連れて，お兄さん二人とも家族を連れて？
金：うん，もちろん。うん。

――2番目のお兄さんは，その前は建青に入ってた？
金：うん，建青におった。

――で，その後，総連ができたら総連の方に入った？
金：うん。建青は後で，統一同志会*13という名前に変えるわけ。統一同志会として総連に，総連の傘下団体になるわけ。建青というのは実質的には総連になっちゃうわけ。総連系の団体に。

――あの，割れるわけですよね，民団の方に流れたり。

金：そうそう，一部分かれるけど。本流は，建青の本流は総連に入っちゃうわけ。というのは，建青の委員長したのは，先に話したあの文東建（ムンドンゴン）いうて，有名な神戸の財閥だったんよ。この人は後で，5，6千トンの船かな。貨物船を買って，県［に］贈り物しとんねん。そやから建青は，一部が変わって，そうなってる。だから金日成（キムイルソン）と文東建（ムンドンゴン）とツーカーの関係になるわけ。金日成（キムイルソン）から電話かかってくるっていうからね。「何々送ってくれ」って言うたら，文東建（ムンドンゴン）が「はい，分かりました」って言うて，すっと送ってやる。……だから，朝連［総連の言い間違いか？］の財政面では文東建（ムンドンゴン）が果たした役割ってものすごい大きいねん。

《甥が北へ》

――あの，えっと一番上のお兄さんは，あのそうすると，ずっと朝連とか，その系統にいらしゃったんですよね。あの，ちょっと話がさかのぼりますけど，朝鮮戦争のこと，吹田事件 ③-＊5) があったり，いろいろ，なんか，そのへんのこと。

金：朝鮮戦争のころはスパイ容疑で除けられた。だからその時期，関係してない。

――ああ，そっかそっか。総連［に］なってから？

金：総連結成されて2，3年してから復帰してるねん。

――じゃあもう，ほんとブラブラしてるんですか？

金：うん。仕事だけ。

――じゃあ2番目のお兄さんも関係してない？

金：2番目の兄貴もその時期，一切関係ない。2番目の兄貴は長兄を信用したわけ。俺の兄貴はそんなことする人，違うって。政治的に合わないのはいくらでもあったけどね。人間から見てそんなことないって。それで一緒に辞めちゃった。

――一番上のお兄さんはその喫茶店をやるわけ？

金：朝連時代にやってた。それで，組織辞めた後は，洋服店ずっとやるねん。裁ち屋，言うてね。服，裁断してね。それを長田でやってんねん。

――それって自分でまた学んで？

金：うん，そうそう。人雇ったりしてね。

――ああそうか，できる職人さんとか？

金：うん。はっきりしてるのは長田離れなかったことや。そんなん，スパイっていうのが本当だったら，恥ずかしくて，どっか逃げていかなあかんのに。それを拒否するわけや。それは立派だと思うよ。

――帰国をされる決断っていうのは何で聞かはったんですか？

金：ああ，それはね。ひょっとしたら，そうだ。息子らが先に帰ってるねん，息子が。

――長男さんの？

金：長男の息子が。で，息子が神戸朝高の２年か３年の時に，僕が大学におる時に来てるのよ，僕会いに。ほんで，［僕は］叔父（チャグンアボジ）だけどね，こないこない考えてるんやけど，どないかって，どないしたらええかって。親父はどない言うてるんや，聞いた。おまえが決めろと，おまえの運命やと。俺はええ格好［で］言うたんよ。で，どないしたいうか。叔父（チャグンアボジ）の意見，聞きたい言うから。俺はもちろん，ええよと。今からおまえ，社会主義祖国のために（笑），地上の楽園を築けと（笑）。その時説教しちゃったんよ。

――その時は，え，長男さんの息子さんに？

金：そう。長男の息子が大学へ来てから相談したからな。

――それは，だからもう２番目のお兄さんはもう行ってる？

金：行ったあと。すると，この長男が勇気づいたんか，一人で帰ったんやけど。後で神戸朝高に赴任して来たら，ある女の子が親しげに近寄ってくるねん。ええ子だということは分かったんだけどね。ものすごいよい子だったんだけど，ある日，家にその子が尋ねてきてからさ，私帰国したいっていうわけ。何を，そんなこと他人の俺に相談するんかって，言うたら。いや，俺に直に相談したいことあるんやって言う。実はその長男［の息子］と約束してるんですって。へぇーへへへッ?!　ほんで，迷ってるって言うわけ。そりゃあ，地上の楽園建設のため，おまえも行けやって言うて。罪なことしちゃったよ。ほんまに罪なことしちゃった。それで行ったよ。

――結婚したんですか？二人は？

金：咸興（ハムフン）でね。咸興（ハムフン）に長男の家族が全部。次男の方は平壌に。それがなあ，しばらくしてもう，1980年代に入ってか，……1990年くらいかな。ある日，テープ送ってくるんだけど，その兄貴の息子らの家族がね，録音したテープなんだけど。泣きながらしゃべりよるねん。「叔父さん（チャグンアボジ）」って……。あの時のどっかにあるん，違うかな。ないかな。まいったよ。まいった，まいった。……なんであのころ，ええ格好してから……帰国を許可したんかって思ったらね。一番無念に残っとるのは一つそれ。甥っ子と俺とは五つも離れてないねん。

――ええ，そんなに近い？

金：うん。兄貴と俺，20の差だからさ。で，よう，一緒に遊んだんよ。だからあいつは俺に相談したと思うんだけどね。もう叔父さんと思ってないやん。兄貴くらいや。で，周りに男ちょうどおれへんやろ。俺ともう，ずーっと一緒に遊んでたから，それで尋ねて来たと思うんやけどね。あの時ええ格好してからしゃべったのが間違いやった。かわいそうなん，さしたんや。

――今いはるんですよね，北にね。

金：まだ生きてる。

《朝鮮大学校第5期生》

――でも三男と四男って，3，4，5と金慶海（キムキョンヘ）さんやから，三男，四男の人はずっと組織にいたんですよね。でも帰らなかった？

金：帰らなかった。

――なんでですか？

金：なんでやと思う？

――家族が嫌がった。

金：家族はみんないるやん。嫌がって？　ううん，違う。韓徳銖（ハンドクス）*14の言い方と全く同じ。

――え，金慶海（キムキョンヘ）さんは，帰る気は全くなかったんですか？

金：あったわいな，何回。

――勧めたくらいやから。
金：うん。地上の楽園建設のために……。

――なんで行かなかったんですか？
金：おまえが帰ったらあかんって言われた。

――ああ，教員として？
金：うん。
　しかも朝鮮大学の５期生。今，今現在もそうやけど，朝鮮総連内部で，大学の期別で見てね，一番たくさん現役の幹部としてやってるのは５期生なのよ。中堅がものすごい多いのよ。

――エリートですもんね。
金：そうよ。……朝鮮大学で同窓会しても５期生いうたら，一目置くもんね。5，6，7くらいまでは。4から始まるんかな，だいたい。

――それ以前の１期生とかいう人たちは全部北に帰ってる？
金：いや，帰ってるのもおるし，帰ってへんのもおるし。今，3，4［期生］くらいまでは卒業生の数がものすごい少ないねん。何十人もおらへんねん。でも５期生になったら100人くらいになるわけ。で，ええ格好しちゃうわけ。今現在，現役もおるし，現役じゃないけれど商売やってるのも多いし，政治的な発言，経済的な発言力ものすごい強いねん。

――すぐ上のお兄さん，朝鮮新報［朝鮮総連の機関紙］でずっと働いてはったんですけど，それはもう大学出てずっと？
金：彼は大学出てないねん。高校だけや。

――あ，そうなんですか。高校出て，その方向に入った。
金：僕の６人兄弟のうちで大学出たの，僕だけ。

――他のお兄さんたちは？
金：大学出てない。末っ子が一番ええ目におうたんや。

――経済的に安定したころに行ってねんね。
金：も，あるわな。……兄貴らは革命運動に忙しかったし。

祖国での体験

《両親の墓》

――お父さんは神戸で亡くなったんですか？
金：ううん。東京で。

――お骨どうしてたんですか，持って帰るまでは？
金：寺。

――金慶海（キムキョンヘ）さんのお母（オモ）さん（ニ）のお墓は。
金：そら，もうとっくに死んだ。［北に］帰って死んだ。

――遺骨はどうなったんですか？
金：咸興（ハムフン）にある。

――咸興（ハムフン）に。墓にあるんですか？
金：うん。墓参りしたよ。

――お父（アボ）さん（ジ）と一緒にあるんですか？
金：一緒に入れてあった。

――お墓は，土まんじゅうですか？
金：土まんじゅう，だった。北でも土まんじゅう。

――一人一個？

金：あんな，だだっ広ーい土まんじゅうの墓作って，これ，生産に寄与するの？

――そんな［に］，でかかった［大きかった］んですか？

金：一面，丘，全部墓なのよ。日当たり良いところばっかりや。そこはトウモロコシ植えるの。米作ってもええとこや。そこに墓や。こんな不経済，非生産的なことがあり得る？

――韓国でもそうですよ。

金：いや，韓国，そうやかて，もっとひどかったよ。

《平壌（ピョンヤン）と済州（チェジュ）で》

金：俺，平壌（ピョンヤン）で，行ってから，ある日，尹伊桑（ユン イ サン）*15音楽堂行ったって言うた。尹伊桑（ユン イ サン）って有名な指揮者おるやん。

――ドイツの。

金：そうそう，ドイツの。面白いのがね，僕ら寝たのは高麗ホテルなのよ。超一流のホテルね。ツインタワーの。そこから1キロぐらいところに尹伊桑（ユン イ サン）音楽堂があるのよ。で，名前聞いてたら，尹伊桑（ユン イ サン）音楽堂，連れてくれって言うたんよ。そしたら兄貴夫婦が連れて行ってくれたんよ。そしたら，入ったら地下に，そのカラオケみたいな，そういうのが，バンドがあったわ。歌い放題，歌って。日本の歌もどのくらい流行ってるか。平壌（ピョンヤン）でやで。ソウル違うよ。

――演歌とか？

金：そんなん，いくらでもやってる。そこの人ら，みんな歌っとるねん。俺はびっくりしたな，あれだけで。

　で，出てきたんよ。高麗ホテル帰りがけ，途中真っ暗だったのよ。そしたら，ぽろっと女性が出てきてさ。なんやしゃべってるわけ。俺分からへん。すると後ろからボディーガードおってさ，バーンどついてから，蹴り飛ばして。その女性を。聞いたんよ，案内人に。何があったんか？　物売りしようとしてたと。たったそれだけ。何や言うて，乾かしたメンタイ売ろうとした。それで，どついて，蹴り倒しとる。尹伊桑（ユン イ サン）音楽堂と高麗ホテルの間でよ。その真っ暗闇で女性が現れて，そんなことしたんや。これが現実よ，平壌でも。はー，あれはまたびっくりしたね。兄貴夫婦らはそんなこと知ってたから，

ニタニタ笑ってたけどもね。俺にとっては大ショックよ。平壌（ピョンヤン）のど真ん中でのことだから。繁華街のど真ん中や。あんなん，あってはいけないことや。

そらね，どんな口実つけてもいいから行ってみる必要あるね。で，あの，繁華街だけでもいいから，見る必要ある。平壌（ピョンヤン），高麗ホテルの前，メインストリートあるけど，ものすごい幅，広いけれども，개장국（ケジャンクッ）［犬肉のスープ，韓国で言う保身湯（ポシンタン）］売っとる。店あるねん。看板出とるねん。8時なったら電気ばーっと消えとるねん。俺，行った時，看板は개장국（ケジャンクッ）って見えるねん。で，案内人，あそこ食いに行きたい，言うたら，「안됩니다（アンデムニダ）」（だめです）。「왜（ウェ）？」（どうして？）。「닫았습니다（タダッスムニダ）」（閉店しました）。

――ふーん，8時。

金：うん。完全に消えていたのよ。日本の衛星テレビでさ，朝鮮半島，北だけ真っ暗の場合いくらでもあるやん，場面が。そら，よう理解できる。その通り。ともかく，北朝鮮に行って見る価値はある。それをどういうふうに見てから判断するか，それはみなさんの勝手。僕は僕の見方した。僕は親族の動き見てからね，判断してるけども。やっぱりね，親族の家行ってみる必要あるね。はー，ショック，ショック，ショック。大変だったよ。済州島（チェジュド）に行くよりもひどかったからね。済州島（チェジュド）の方がはるかに自由。

――うん，済州島（チェジュド）のほうがね，はるかに発達してるからね。

金：あのな，4番目の兄貴と5番目の兄貴と，今回行ったけど，4番目の兄貴の感想の一つはね，あの田舎村で，1，2メートルの道，コンクリートで舗装されてる，言うて。それでびっくりしとるのよ。なんでやと思う？　平壌（ピョンヤン）のどまんなか，舗装されてないところがいくらでもあるのよ。俺の兄貴の家行ったけど，平壌（ピョンヤン）のど真ん中や。でもでこぼこで，水たまりいくらでもあるのよ。これを彼は連想したわけ。メインストリートのところでも，でこぼこ。

だけど，済州島（チェジュド）のあの田舎町は，舗装されてる。これ，畑に入るところまで，してるからね。この現実，見るわけよ。で，行ってみたらその従兄弟のその家がコンクリートの2階建ての家やな。ミンボギの家な。こーれは，また度肝ぬいとるのよ。農民がどのくらいよい生活してるか。朴正熙（パクチョンヒ）のおかげか，と。まあ，それはちょっと関係ない感じがするが。朴正熙（パクチョンヒ）のよさはそれあると思うよ，政治はさておいても。それで，もう兄貴びっくらこいたんやね，うん。

問題は，その世宗（セジョン）大王*16もそうだけどさ，百姓食わせるか，どうか。民衆食わせるか，どうか。それで判断されるんと違う？　民衆を食わしたものは勝つねん。食わしてない

のは，いつか負ける。今の韓国は自由と民主主義が保障されてるし，生活は安定してると。そら，ミンボギの家な，立派な家やん。もう豪邸よ。ものすごい裕福な生活してるわけよ。たったミカンの，経営者だけや。

――え，新興里（シンフンリ）でみかん？
金：彼はみかんだけ，やっとるねん。村からちょっと山に登ったところで，ハウス栽培。

――だからもう水，ポンプで水引いてばーっとやってたから。
――それ，相当お金あるなー。
金：いや，金なかったんよ。日本に出稼ぎ行ってから，金貯めて，帰ってるわけよ。大阪に出稼ぎに行ったんよ。

――大阪に来て，金貯めて，ミカン畑買ったりとか，そんなん結構多いですよ。
――だから要するにあれやな，それが生業になってるな。
金：そう，生業。多いよ，多いよ。もう一人の親戚もそうだった。兼業なのよ。

――ミンボギさんっていう人は，完全にミカン畑？
金：完全にミカン畑。そら，広ーいミカン畑持ってたもん。漢拏山（ハルラサン）のふもとに。山，入ったところ。

――成功しはったんや。
金：農民らが生活できてる。一番大切だと思うよ。農民が食えなかったら，反乱しか起こらへんやん。農民一揆って一番怖い。

歴史教師として

《「4・3（ササム）」をテーマに》

――金慶海（キムキョンヘ）さんは，なんで朝鮮大学で歴史に行かはったんですか？
金：うーん……。あ，朝鮮大学のね，ものすごい面白いことわざで，「바보（パボ）［ばか］の歴地（ヨクチ）」いう言葉がある。바보（パボ），멍텅구리（モントングリ）［ばか，まぬけ］。「パボ，歴地（ヨクチ）」。朝鮮大学に学科いくつかあるけれど，一番落ちこぼれが歴史地理学科に入るわけ〈一同：笑い〉。

ちょっとできの悪いのが歴史地理学科に入るわけですよ。

――政治とかが，やっぱりエリートかなんか？
金：そうそうそう。当時はね〈一同：笑い〉。

――えー，それで入ったんですか？
金：うん。理工系なんてとうてい無理や。ほんなら何か，教員とつながるもの，なんかないかなと考えたら，ああ，歴史できるな，と。ここなら間違いなく入れるだろうと（笑）。まあ，それだけよ。

――で，卒論で，前伺った時，4・3（ササム）［済州島4･3事件］のこと，しようとしはったって言ってたじゃないですか。それはなんでなんですか。
金：4・3（ササム）ねー。……これが卒論の題や。

――えー。すごい。
――それ，卒論なんですか？
金：卒論，の予定だった。で，卒業迎えてから，当時担任が朴慶植先生（パクキョンシクソンセンニム）*17だったんだけどもね，4年生の時。朴慶植先生（パクキョンシクソンセンニム），ものすごい長いつきあいや。高校時代も教えてもらったり。で，僕が大学入ったら，彼も大学来てたし。で，あの，卒論，書かな［書かなければ］，卒業できないっていうから，何しようかって言うて，先生に相談したら，朴慶植先生（パクキョンシクソンセンニム）が「おまえ済州島（チェジュド）やから，4・3（ササム）やれ」って言われた。「あれ，まとまったん，まだないよ」って言うからさ，それは面白いなと。それで遅かったんよ。4年［に］なっても，しばらくしてから，夏休み迎えてから，その話になったわけ。いや，どないしたら，資料，どこにあるんやろ。ほんなら朴慶植先生（パクキョンシクソンセンニム），教えてくれたのは，姜在彦先生（カンジェオンソンセンニム）*18，会ってこいと。どこにいらっしゃいますかって聞いたら，大阪やって。
　ほんなら，またお袋に頼んでから，汽車賃もろて，大阪まで来たよ。ほんだら姜在彦先生（カンジェオンソンセンニム），喜んでくれてね。夏や。冷たーく冷やしたスイカ，おいてくれて，奥さんが。それであの奥さん，記憶してるのよ。ものすごいおいしい。冷えたやつね。冷やしてくれたんやろ。ほんで話しながら，4・3（ササム）ってこないしてできたとか，どのように資料収集するかとか，教えてもらって。俺が持ってるのは，これやって言うて，段ボール箱，一箱か二箱か，もらったんや。資料ぜーんぶ，もらったことになる。今，記憶，資料の内容，記憶ないんだけど。

《未完の卒業論文》

金：書き出したら，もう卒業や。20ページも書いてないと思う。途中で卒業しちゃったんや。朴慶植先生（パクキョンシクソンセンニム），3月末なって，「朴慶植先生（パクキョンシクソンセンニム），これしかできないんやけど，どないしたらええかな？」「しょうがねえや，地方で先生が足らんから，卒業してしまえ」って言うて。卒論完成せずに，卒業しちゃったんや。地方でも当時の朝鮮学校の生徒数，ものすごい増えていってたからね。あれ，62年か，3年か，俺が卒業したのは。……63年かな。大学卒業したのは63年だ。朝鮮大学卒業したんだけども。各地方の学生数がものすごい増えてくるし，特に朝高の場合は先生が足りなかったから往生したらしい。それで卒論完成してないの，たった僕一人だけで，無理矢理に卒業させられた。朝鮮大学歴史地理学科，始めころは20人くらいおったかな。卒業したのは11人しかおらへん。ほとんど退学しちゃった。帰国者も何人かいたっけ。

――ああ，そっか。

金：でも11人だから貴重な存在だ。歴史と地理が分かる。というのは，歴史地理学科の1期生になるわけ，僕は。大学としては5期生だけども，歴史地理学科は1期生になるわけ。貴重な存在になるわけ（笑）。だから，トコロテン式に追い出されたんや。

――そしたら，48年は，小学生じゃないですか。その時は，4・3（ササム）のことは？

金：何も知らん。

――全然？

金：4・24（サイサ）も知らん。同じ4月にあったのに。

――4・3（ササム）のことはいつくらいから知りはったんですか？

金：大学入って。

――どういう経路っていうか，どういう話をどこから？

金：誰に聞いたのか，どのように教わったのか，記憶にないけれど，4・3（ササム）というのが済州島であったと。で，麗水（ヨス）・順天（スンチョン）の反乱*19もあったと。ということは，歴史の時間かどっかで習ったと思うねん。

――その時，4・3（ササム）っていうふうに言っていたんですか？

金：と，思う。記憶がはっきりしない。でも，僕の故郷の問題だからさ，たぶん記憶に相当残ったんと違う？　ある時に4・24（サイサ）もあるよと，ちらっと聞いてるし。見たら，同じ48年4月や。これ共通項や。済州島（チェジュド）と神戸と，どないなっとるか。ほんな，ぼやーっとしただけ。ともかく朴慶植先生（パクキョンシクソンセンニム）が4・3（ササム）のことやれって言うから姜在彦先生（カンジェオンソンセンニム）とこ行って教わって，論文まとめようとしただけなのよ。あれ，完成してりゃ，ものすごい論文なったはずやのになー。

――そんな時期に4・3（ササム）のこと書く人なんて。

金：誰もまだやってへん。今，誰？　金石範（キムソクボム）*20氏とか？

――金時鐘（キムシジョン）*21さんとか。

金：彼が先だからね。

――『済州島血の歴史』*22，あれ何年ですかね？

金：金石範（キムソクボム）やなくて……，金奉鉉（キムボンヒョン）？

――ああ，そう。

金：金奉鉉（キムボンヒョン）さんと会（お）うたんよ。そのこともあって姜在彦先生（カンジェオンソンセンニム）に会う前か後か知らんけども，議論したんよ。4・3（ササム）を，どない見るべきかということで。彼は事件として見るわけよ。事件ではおかしいんじゃないかと。事件という言葉自体がね。社会的には悪いイメージ与えるやん。4・3（ササム）というのは，悪いものだったのかと。よく分からんから教えてくれ，言うたんや。どうしても悪いようには見えない部分もあるんじゃないかと。そしたら単独政権反対したという，よい面があるんじゃないかと。途中でなんかこう，殺し合ってると。これはちょっと問題だなと。俺は分からんと。でも事件という言葉は，本当じゃないんじゃないかと，俺は意見出して，激論した。

――60年代から，そんな話してたんですか？

金：うん。あれはほんまに，あの時，論文完成してりゃあ，今ころ有名な歴史学者になれてた〈一同：笑い〉。

《「4・24」との再会》

金：残念だった。それから，大学卒業して神戸朝高に来るわけ。というのは，兄貴がおったから。大学で心配して，全然身内のいないところ行かしたら危ない，しんどいやろと思って，神戸よこしたらしい。で，来てみたら，毎年4月24日迎えると。そしたら校長がある日，4・24（サイ サ）のこと，生徒らにしゃべれって言うからさ。4・24（サイ サ）……何があったんかな？　おまえ歴史の先生（ソンセンニム）やろ，それくらい勉強せーって言うて。それで4・24（サイ サ）のことの勉強が始まったんや。

――63年に卒業して，すぐ神戸に来て。
金：うん。

――なんで教員になろうと思わはったんですか？
金：うーん。なんでかな。面白いこともあったかも分からん。楽しいんじゃないかと。こう，人間をつくる作業やからね。これは一番こう，ええ格好いうたら，崇高な仕事じゃないかなと思って。教員目指したんだけどね。

――その時，お兄ちゃんたちみたいに組織に入る？
金：それもちょっと考えにあったと思うよ。でも，あの，教員の方がいいんじゃないかという気がしたね。人間をつくるという仕事だから，それ以上，物をつくるのと違うからね。人は。真っ白な紙にさ，どの色をつけるか。

――金慶海（キムキョンヘ）さん，子どもさんもみんな朝鮮学校ですか？
金：僕の子ども？　うん。神戸朝高。

――燃えてる時に子どもたち，学校に行ってましたもんね。
金：はい〈一同：笑い〉。なんか，今，皮肉言うたんと違う？〈一同：笑い〉

――結婚したのは，東京でですか？
――こっち来てから？
金：うん。

――でも他のところ行かずに神戸でずっと教鞭とられたんですね？
金：うん。

――ずっと神戸朝高ですか？
金：ううん，一時，ちょっと転々とする感じ。ずーっとほとんど神戸朝高。

――そういう転勤の制度みたいなんは，あんまりないんですか？
金：あるのは，あるよ，うん。……でも僕は神戸朝高に長いことおったもんだから，担任なんかすると家庭訪問せな，あかんやん。今はもう日本学校もそうだと思うけども，一年間のうちに必ず担任の生徒，全部回るようになってるからね。ほなら，兵庫県ってものすごい広いやん。日本海まで行かなあかん。香住とか浜坂まで。ほんで，地理が分かるやん。なんでそこに朝鮮人が住んでるんか。これ，父兄らとしゃべろうと思ったらさ，それも聞かなあかんやん。ほんなら父兄らは，すぐしゃべってくれへん。まず一杯飲めよ。飲まな，しゃべってくれへん。ほんで飲みながら，なんで赤穂にいるんですか，と。いつから来て何してたんか。それで一つの歴史が分かってきたんや。

――ああ，なるほど。それが篠山での話なんですね。
金：そうそうそう……。そのうちの大きなテーマが4・24（サイサ）やねん。神戸の人らや阪神間の同胞ら父兄らとおったらさ，ものすごい自慢タラタラしゃべるわけよ。俺，4・24（サイサ）の時こないしたよ，あないしたよって。えー，偉そうに言うなーっと思って。それでまた，校長の命令でもあったし，左翼［活動についても］しゃべらすわけや。それで僕のライフワークはできました。

――本，出されたのはいつでしたっけ？
金：いや，本当はね，あの本は，4・24（サイサ），30周年記念で出す予定してたんよ。

――30周年ですか？　……78年。
金：うん，78年ね。ほんで，原稿書いて，一応組織内におったから，総連兵庫県本部に提出したんや，その原稿を。で，それが中央までいっちゃったんよ。中央では，教育担当は当時，李珍珪（リジンギュ）副議長や。僕の大学時代の副学長や。学長までした人や。その，副議長読んでから，内容はまあいい，その代わりこれを日本語に訳せとなっちゃったんよ。と言うのは，俺は朝鮮学校の子どもらを対象に考えてたんだけど，日本人にも読んでも

らわなあかんと。4・24のことを知ってもらわな，あかん，言うて。ほんで，出版1年遅れたんや。日本語にまたぜーんぶ訳したんや。だから，僕の原稿見て，赤を一つ一つ入れてたね。10ページ以上。あの副議長の李珍珪が，あれ直せ，これ直せ，これ確認しろとか。あの本は俺のもん違うねん，本当は。

――かなり直されてる？

金：ものすごい直された。実質，李珍珪副議長の本なんよ，あの本は。

――今回［2006年］，韓国で翻訳出ましたよね。その時はどうしたんですか？　また元にしたんですか，それとも今のあれを？

金：元にもどしたんもあるし，それ以後のことも書き足したし。暴露本なるよ，あれは。……ま，李珍珪副議長は偉い人よ。僕みたいに何も知らんやつに向かってね，ええことしたから，がんばって日本語に訳せ，言うてな，教えてくれたし。

――元々は何をしてた人なんですか？　その，ずっと総連の？

金：李珍珪氏？　彼はあの戦後からずっと教科書関係担当したんや，朝連の中で。教科書の出版から始まって，ともかく，在日朝鮮人民族教育の実務面をずーっと歩いた人なんよ。在日朝鮮人の教育問題を論じようと思ったら，彼［で］なければだめや。

《李珍珪副議長の寄贈資料を探して》

――自主的にその内容を作ってきた？

金：一番よう知ってる人。それで，その先生に尋ねて行ったんよ。4・24のこと，調べて出すからって言うたら，ええことやって。おまえな，来るの遅かった，言うて。俺の持ってる教育関係の資料，全部平壌に行っちゃったって言うのよ。人民大学習堂*[23]あるやん。日本で言うたら，国会図書館か？　あそこに全部行っちゃったって言うのよ。おまえ遅かったって言うて。

　で，その話，覚えてたから，北に行く時，人民大学習堂に行ったわけよ。で，知らんぷりして「在日朝鮮人関係の資料見せてくれ」て申請したら，係の者がぷいぷいや。知らんぷりしやがんねん。ともかくあるはずやから，見たい，と。俺のもんもあるはずや。一度みたいと。ほんだらちょっと，で，開けてくれてね。一般閲覧室は1階，2階，3階くらいやったかな。何もないやつ見せよんねん。4階か5階に連れてってくれた。担

当者出てきてから，何が見たいか言うから，在日朝鮮のことみたいと。すると，怪訝な気の悪い顔しよるからさ，自分らで話し合ってた。そしたらカード持ってきよったわ。こう，繰っていったら，在日朝鮮人ってあんまり出てけーへんねん。まあ，ありふれた人しか出てけーへんねん。いや，もっとあるやろう，持ってこいって言うたら，また機嫌，険しなる，また持ってきよって，カード。ちょうど，俺の書いた本，出てくるわけ。うん，이것 있다［これある］。ほんなら가지고 와 봐라［持って来い］。

あそこでは命令調じゃないと聞かないの，こいつらは。가지고 와 봐라や。가지고 와 주세요［持って来て下さい］じゃだめなのよ。가지고 온나［持って来い］，とか。そしたら敬礼立つもんね。おもしろい国やな，あの国は。持ってきよったよ。ほんなら，これとかあのいろんな日本史の本出しとったわ。안 그래，더 다른게 있다고［違う，もっと違うのがある］。すると，この担当者，機嫌悪くしてるわけ。で，3，4箱持ってきたらそれでしまいや，いうわけ。안 그렇다，더 있다［違う，他にある］。실은 리진규 부의장께서 기증하신게 있다．직접 듣고 왔다［実は副議長が寄贈したものがある。直接聞いてきた］。そしたらこの担当者ぎくっとしちゃってね，그런 것 없습니다［そんなものありません］。볼 일 있으니까 오늘 왔는데 내라［見る必要があるから，今日来たから出せ］。命令調や。こんなん。そやないと聞けへん。一切ここではせえへんねん。

――なんでやろ？

金：李珍珪副議長が言うにはね，自分の収集したそのスクラップの中には伝単まで入ってるって。電信棒に貼る，この，伝単って言葉知らんかな？

――ビラですね？

金：ビラ。電信棒になんか貼るビラね。それまで収集して送ったっていうわけ。当時のみな送ってるって。

――すごいな，それ。

金：俺なんか問題ならへん，こんな新聞なんか。何十箱行ってるんですよ。

――それ，公開されたらすごい研究が。

金：うん。当時のには，金日成万歳なんて，あれへんもん。それが問題やと思うよ。ほなら公開しない。と，俺は勝手に解釈してるけどね。でも，李珍珪さんは学者なもんだから，正直に全部収集してあるわけよ，教育者だから。ああいうことなのよ。がっかりし

たで。李珍珪氏，이름도 없습니다［名前もありません］！　もう腹が立って，腹が立って。今ころは，もうあの，風水害で，やられてから，腐っていってるかも分からん。

――保管の状態がね，良くないとカビたりとかしますもんね。

金：まいったよー。あのコレクションはすばらしいと思うよ，残ってれば。朝鮮戦争前後から始まって，隠れた在日朝鮮人内部の歴史が出てくるわけよ。びっくりしたんや。ビラ一つまで収集したんやからさ，もったいない，もったいない。

――小出しにするということに権威付けを。

金：権威付けもいいけど。面白かったんが，その図書館でな，案内人があんなにずーっとついてくるやん，どこに行こうとも。飲み屋に行ってもついてくるやん。ホテルに寝かせるまで，24時間監視や。で，その人民大学習堂行く時に，案内に言うたんや。今から大学習堂に行きたいと。……なんでやー，言うような顔や。いや，ちょっと勉強しに行きたい。しょうがない，タクシー呼びつけて行きよったわ。

　で，はじめ，1階の受付で僕の目録出しよったわ。ほなら，金慶海いう名前で出したもん，ずーっと出てくるやん。それでまた案内人びっくりしたな。金慶海ってそんな人間か，って言うてさ，態度変わってきよるねん，ちょっと。今度は在日朝鮮人のこと調べたい，どこか連れていけ，いうて。こうしてまた行って聞いてからさ，4階とか5階とか行ってくれよったわ。行ったんよ。そしたら，ガーッと，ファイル，目録，繰ったらさ，俺の名前の本出てくるやん。それ案内人読んでからな。そのままうたた寝してふんぞり返ってた。居眠りしてたんや。それが，金慶海が書いた本や言うたら，ほんだら，もう態度変わってなー。もうその図書館係員の人，命令や。김 경 해 선생님 말씀하시는 책을 가져와야지，너［金慶海先生がおっしゃる本を持って来い，お前］。

　えー，そらもうおもろい国やね，あの国は。官僚主義ももう普通じゃないわ。もう，徹底してる。もう，さまさまや，金正日が。それが終わった後，5000円だけやった。フリーパス。개 장 국も俺，一人で食べに行ったしさ。パーッと変わりよんねん。선생님，오늘은 뭐 어데 가고 싶은 데 없습니까？ 개장국 먹으러 갑시다．네 택시 요쫍도록 하겠습니다［先生，今日は何か，どこか行きたい所ありませんか。犬肉食べに行きましょう。タクシー聞いてきます］。運転手，送ったら，もうさーっと行って帰りよる。一人で行ってきた。おもろい国やね，あの国は。めちゃくちゃやで。あれで，人民の国？

――お兄さんは，長男さんはいつ亡くなられたんですか？

金：亡くなったのはねー。いつやったかな。……85 年 12 月。僕はもう朝鮮学校バイバイした後や。80 年か，81 年に辞めてるからね。

（以下，次号）

＊本研究は科学研究費補助金（課題番号 24520782）の助成を受けたものである。

【用語解説】

＊7　許宗萬（ホ ジョンマン）（1935 ～）

朝鮮総連幹部。慶尚南道出身で 1931 年生まれとの説もある。総連中央委員会の国際部副局長（1967 年），事務総局副局長（1980 年），副議長（財務担当，1986 年）などを歴任。金正日の信任を受けて総連内部での発言力を強め，1993 年に責任副議長就任，1998 年には共和国最高人民会議の代議員に選出された。2001 年の韓徳銖議長死後は，実質的に総連の最高実力者と言われた。2012 年 5 月，死去した徐萬述議長の後任として，正式に第 3 代議長に選出された。

＊8　都立朝鮮人学校

朝連（在日本朝鮮人連盟）強制解散後の 1949 年 10 ～ 12 月，日本政府は朝連が設置したすべての学校に対して閉鎖を命じた。東京都教育委員会は同年 12 月 20 日に「東京都立朝鮮人学校設置に関する規則」を制定して，都内の朝鮮人学校 14 校を都立化したが，都立朝鮮人高校はそのうちの一校である。都教委は教育方針として，教育用語は日本語とする，民族教育科目は課外，朝鮮語は外国語として扱う，教員資格がない朝鮮人教師は講師扱いとする，などの 4 原則を打ち出した。こうして都より派遣された日本人校長や教諭が，朝鮮人講師とともに在日朝鮮人児童の教育にあたることになったが，サンフランシスコ講和条約の発効で，在日朝鮮人の日本国籍離脱が法務省から通達されると，一転して都教委は 1954 年に私立学校移管の方針を表明する。このため朝鮮人側は学校法人東京朝鮮学園を設立し，1955 年 4 月 1 日付で都立朝鮮人学校の資産を引き継いだ。この学校で教師をつとめた梶井陟の回想記（『都立朝鮮人学校の日本人教師―1950-1955』岩波書店，2014 年）は，当時の民族教育の状況を知るうえで貴重な記録である。

＊9　金明植（キムミョンシク）（1938～）

東京・深川に生まれ，5歳で枝川に移る。都立朝鮮人高校1年在学中の1955年，第33回全国高校サッカー選手権に初出場し全国3位となる。中央大学では天皇杯で準優勝，全日本大学選手権で2年連続優勝。卒業後は神奈川朝鮮中級学校で教員をしながら，「幻の日本最強チーム」と言われた在日本朝鮮蹴球団のエースFWとして活躍。現役引退後は，朝鮮大学校，東京朝鮮中高級学校で後輩を指導し，練習試合などを通じて日本のサッカーにも多くの影響を与えた。

＊10　東京朝鮮第二初級学校敷地問題

江東区枝川に所在する東京朝鮮第二初級学校の敷地には，もともと1941年に東京市（当時）が建設し周辺の朝鮮人住民を強制移住させた簡易住宅の隣保館（福利厚生施設）があった。解放後の1945年12月，朝連は隣保館を利用して朝鮮人子弟の教育の場として深川初等学院を開設した。1949年に朝連の設置した学校が日本政府によって強制閉鎖されると，同校は都立第二朝鮮人小学校に改組されたが，1955年には学校法人東京朝鮮学園に運営が移管され，東京朝鮮第二初級学校となった。1964年の新校舎完成にあたって，その前年に同校の校舎敷地は払い下げられたが，グラウンドについては1972年に，遡って1970年からの20年契約で都から無償貸与されることになった。そして期限が切れた1990年以降，払い下げについて協議が行われたものの，売却額をめぐって物別れとなり，交渉は途切れていた。ところが2003年になって突然起こされた住民の監査請求を契機に，都が土地の明け渡し，工作物（職員室・玄関など）の撤去，および地代相当金4億円の支払いを求める訴訟を起こしたため，学校は存亡の危機に立たされることになった。こうした都の方針に対しては，学校関係者はもとより，日本や韓国の市民からも批判の声が上がり，結局2007年3月，東京朝鮮学園側が1億7000万円を支払い，都が土地を譲渡することで和解が成立した。和解金の支払いには日韓の市民団体がカンパを募って協力した。

＊11　崔東玉（チェドンオク）（1921～2003）

在日朝鮮人作曲家。1952年の都立朝鮮人学校廃校通告に対し，民族教育守護を訴えて制作された映画「朝鮮の子」の音楽などを担当。朝鮮総連文学芸術家同盟東京本部委員長などを歴任。作品集『祖国の愛はあたたかい』など。

＊12　在日本朝鮮人文学芸術家同盟（文芸同）

総連傘下の文学・芸術団体。母体は1946年結成の在日朝鮮芸術協会で，これを1948年に改組した在日朝鮮文学会の会員が中心となり，総連結成後の1955年に在日朝鮮人文化団体協議会（文団協）が結成された。文芸同は1959年6月にこの文団協が発展的に解消して結成された組織である。文学・美術・音楽・舞踊・演劇・映画・写真などの分野で活動する芸術家を広範に網羅し，総連の文芸宣伝機関として，創作活動・大衆宣伝活動や活動家の養成などを行っている。

＊13　朝鮮統一民主同志会

1948年10月，朝鮮建国促進青年同盟（建青）の「統一派」を中心に結成。建青兵庫県本部を中心とする統一派は，在日本朝鮮居留民団（民団）結成（1946年10月）後も建青の組織を維持しつつ，南朝鮮単独選挙に反対し，韓国政府と距離を置き活動した統一戦線志向の民族主義者のグループである。委員長は李康勲（新朝鮮建設同盟＝建同副委員長），副委員長は文東建（前掲）。当面の目標として，全勤労人民と良心的な民族資本家，知識分子，各種民主諸派などの愛国者を連合した民主政権樹立を掲げながらも，究極目標は社会主義国家建設とし，金九の南北統一路線を支持した。1951年1月に結成された在日朝鮮統一民主戦線（民戦）に参加し，李康勲委員長は議長団の一人となる。（ただし李康勲はのちに民戦，統一民主同志会を除名。）1955年9月の民戦解散，在日本朝鮮人総連合会（総連）結成にともない解散し，メンバーの多くは総連に参加した。

＊14　韓徳銖（ハンドクス）（1907～2001）

在日本朝鮮人総連合会（総連）の初代議長。慶尚北道慶山郡生まれ。1927年に渡日，日本大学専門部社会科中退後，日本共産党系の日本労働組合全国協議会（全協）に加わり，労働運動に身を投じる。1934年には朝鮮人労働者のストライキに加わって逮捕され，2年間服役。 解放後は在日本朝鮮人連盟（朝連）の結成に参加し，神奈川県本部委員長，中央本部総局長などをつとめ，朝連強制解散の際に公職追放処分を受ける。朝鮮戦争勃発後は，日本共産党の影響下にあった在日朝鮮統一民主戦線（民戦）主流派に対し，共和国との連携を重視する「民族派」の中心人物として在日朝鮮人運動の路線転換を主張した。1955年の総連結成時には6名の議長団の一人であったが，1958年には単独で議長となって絶対的な地位を築き，2001年に死去するまでその地位にあった。共和国における金日成の「唯一指導体制」に総連組織を組み入れ，1967年には共和国最高人民会議代議員に選出，1972年には共和国政府より「労働英雄」の称号を受けた。

＊15　尹伊桑（ユンイサン）（1917 ～ 1995）

作曲家。慶尚南道統営生まれ。1935 年に渡日し大阪音楽学校で学んだ後，1937 年に帰国，音楽教師となる。解放後，1956 年にパリ国立高等音楽院に留学するが西ドイツ（当時）に移り，1959 年に発表した「七つの楽器のための音楽」で注目される。しかし 1963 年の共和国訪問などの活動が韓国の公安当局を刺激し，1967 年に韓国中央情報部によって拉致された（東ベルリン工作団事件）。韓国への強制送還後，スパイ容疑で死刑を宣告されたが，国際的な音楽家たちの救命運動で 1969 年に釈放された。1971 年に西ドイツに再び渡り，旺盛な創作活動を繰り広げる一方，ベルリン芸術大学教授として後進の育成にも尽力した。平壌の尹伊桑音楽堂は，共和国での彼の音楽活動を支援するために建てられたものである（1992 年竣工）。代表作に，光州民衆運動をモチーフにした「光州よ，永遠に」，ベルリンフィル 100 周年の依嘱作品「交響曲第 1 番」，共和国国立交響楽団が初演した「わが地，わが民族よ」など。

＊16　世宗（セジョン）（1397 ～ 1450）

朝鮮王朝の第 4 代国王。第 3 代国王太宗の三男で，名は李祹。1418 年に即位。ハングル（訓民正音）を制定，儒教が理想とする王道政治の実現を目指し，学問の振興につとめた。朝鮮の歴代君主の中でも，とくに名君として知られている。

＊17　朴慶植（パクキョンシク）（1922 ～ 1998）

歴史家。在日朝鮮人史研究の開拓者。慶尚北道奉化郡生まれ。1929 年に両親とともに大分県へ渡る。解放後は一時，朝鮮建国促進青年同盟（建青）で活動するが，のちに在日本朝鮮人連盟（朝連）に移る。1949 年東洋大学文学部史学科を卒業，東京朝鮮中学・高校の歴史教師となる。一時，歴史研究に専念しようと朝鮮研究所の専任研究員となるが，ほどなく朝鮮学校に復帰し，1960 年に朝鮮大学校教員となる。1965 年に『朝鮮人強制連行の記録』を刊行，強制連行研究の嚆矢として重要な意義をもつ。朝大を離れてからは，1976 年に在日朝鮮人運動史研究会を発足させ，研究者の育成に尽力した。晩年は同胞歴史館建設に向け奔走していたが，不慮の事故で死去した。主著に『日本帝国主義の朝鮮支配』（1973），『朝鮮三・一独立運動』『在日朝鮮人運動史』（1979），『解放後在日朝鮮人運動史』（1989）など。

＊18　姜在彦（カンジェオン）（1926 ～）

歴史家。済州島生まれ。1946 年東国大学校政経学部に第一期生として入学，左右合作運動に参加する。1950 年に来日し，大阪商科大（現・大阪市立大）研究科で学ぶ。修了後は朝鮮通信社勤務を経て，民戦・総連の専従活動家となる。1968 年に総連を離れたのちは歴史研究に専念し，おもに民族運動史，思想史の分野で多数の研究成果を発表する。1971 年より京都大人文科学研究所の研究班に参加，1974 年には『季刊三千里』の創刊に編集委員として加わり，1984 年に花園大嘱託教授となる。主著に『姜在彦著作選』全 5 巻のほか，『朝鮮近代史』（1986），『ソウル』（1992），『満洲の朝鮮人パルチザン』（1993。のちに改稿して『金日成神話の歴史的検証』1997），『朝鮮儒教の二千年』（2001）など。

＊19　麗水・順天事件（再掲）

4・3 事件鎮圧のため，済州島への出動を命じられた麗水の国防警備隊第 14 連隊は，1948 年 10 月 19 日，出動命令を拒んで反乱を起こし，翌 20 日には隣接する順天にも反乱が波及，麗水・順天を解放区として人民委員会を再建した。当時，軍隊内には南朝鮮労働党（南労党）のフラクションが健在であり，第 14 連隊の将校クラスには南労党員もいた。反乱は 10 月 28 日に鎮圧されたが，都市部から撤収した反乱兵 1000 人は智異山へ移動し，以後山岳地帯を根拠地として，南労党指揮下のパルチザン闘争が展開されることになった。

＊20　金石範（キムソクボム）（1925 ～）

小説家。済州島出身の両親のもとで大阪に生まれる。1948 年，京都大学文学部入学とともに，在日朝鮮人学生同盟で活動するかたわら，日本共産党に入党。1951 年，京都大学卒業後，大阪朝鮮文化協会の設立や，その雑誌『朝鮮評論』創刊などに携わる。1952 年に日本共産党を脱党。1957 年に「看守朴書房」「鴉の死」を発表して以来，当時語ることさえタブーであった済州島 4・3 事件の追究をライフワークとする。その集大成が超大作「火山島」であり，第 1 部が大佛次郎賞（1984 年）を，全 7 巻が毎日芸術賞（1998 年）を受賞した。また 2015 年 4 月には，韓国の第 1 回済州 4・3 平和賞を受賞した。主要な小説作品は『金石範全集』全 2 巻，『〈在日〉文学全集』第 3 巻などに収められており，『ことばの呪縛』筑摩書房（1971），『「在日」の思想』（1981），『転向と親日派』（1993）など評論集も多い。

＊ 21　金時鐘（キム シ ジョン）（1929 ～）

詩人。元山に生まれ，済州島で育つ。解放後，南朝鮮労働党に入党し，4・3 事件の際

には蜂起に参加。1949 年に難を逃れて日本へ渡る。日本共産党に入党する一方，民戦で民族学校の再建に携わり，また大阪朝鮮文化協会の結成にも加わる。1953 年詩誌『ヂンダレ』を創刊。以後，日本語による詩作を中心に，在日論などの執筆活動を続ける。1973 年，兵庫県立湊川高等学校の教員となり，日本の公立学校で初めて正規科目として朝鮮語を教え，大阪文学学校理事長なども務めた。評論集『「在日」のはざまで』（1986 年）で毎日出版文化賞を，詩集『原野の詩』（1991 年）で小熊秀雄賞特別賞を，また詩集『失くした季節』（2010 年）で第 41 回高見順賞を受賞。その他，詩集に『新潟』（1970 年），『光州詩片』（1983 年），訳詩集に『尹東柱詩集　空と風と星と詩』（2004 年），『再訳　朝鮮詩集』（2007 年）などがある。

＊22　『済州島血の歴史』

在日朝鮮人歴史家・金奉鉉の著書。副題は「四・三武装闘争の記録」で 1978 年に国書刊行会から刊行された。韓国で済州島 4・3 事件に関する議論がタブーであった時期，金奉鉉は金民柱との共編で朝鮮語の『濟州島人民들의《4・3》武装闘争史：資料集』（大阪・交友社，1963 年）を出版していた。本書はこれをもとに書き下ろされ，済州島 4・3 事件の事実経過を知るための，ほとんど唯一の公刊された日本語文献としての役割を，長く果たしてきた。今日においても，4·3 体験者の，事件に対する悲しみと苦悩を考えるうえで，重要な著作である。

＊23　人民大学習堂

平壌市内にある共和国最大の総合図書館・学術サービス施設。1982 年に完成，金日成広場に面し，朝鮮の伝統的な建築様式と近代建築を融合させたような外観である。建築面積は 10 万平方メートル，10 階建てで，蔵書約 3 千万冊とされている。